

令和4年度公益社団法人宮津与謝広域シルバー人材センター事業報告

総括的事項

昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻が長期化し、情勢が一層悪化するとともに、国内においても原油高や円安による厳しい経済状況が日本経済に大きな影響を及ぼし、毎日のように食品等の値上げが報道され、国民生活に重くのしかかっています。

一方、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類に移行し、国内外の観光客の入込みが増加傾向に転じるなど、3年に及ぶコロナ禍から少しずつ回復の兆しが感じられる状況となってきました。

当シルバー人材センター（以下「センター」という。）においても、令和2年度からコロナ禍の影響により観光、宿泊、飲食などの一般企業分野で休業が相次ぐとともに、管理、運転、清掃などの分野とあわせ、公共、民間ともに事業実績は大きく落ち込んでいましたが、令和4年度においては、徐々に前年度、前々年度を上回る回復傾向にあります。しかしながら、コロナ前の令和元年度まで回復するには至っておらず、加えて令和5年10月から施行されるインボイス制度への対応など、引き続き厳しい事業運営が予想されるところです。

このような中、「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもと、一丸となって事業推進に取り組んだ結果、決算においては請負・委任事業、派遣事業とも事業収益は当初の予算見込みを上回ることができました。

独自事業においても、弁当グラン・マのグループによる健康弁当配

食事業が6年を経過し、女性会員の就業の場、生きがいの場として定着しています。令和4年度は、5,300食を売り上げることができ、当初の目標としていた5,000食を上回ることができました。

センターの基盤である会員数の拡大については、定年延長や継続雇用制度の導入などで新規入会者が減少傾向にあります。しかしながら令和4年度は病気、高齢化等の理由により43人の退会があったものの48人の新規入会があったため、年度末の会員数は353人となり、前年度末の348人に比べて6年ぶりに増加に転じる結果となりました。令和4年度は、初めて入会者、紹介会員に特典を設けて会員拡大キャンペーンに取り組み、これらの地道な「一人一会員入会運動」の効果が結果として昨年を上回る会員数に繋がったと考えられます。今後も効果的な方法により一人でも多くの会員拡大につながるよう取り組む必要があります。

一方、会員の就業状況につきましては、就業実人数は318人（前年度306人）、就業率は90.1%（前年度87.9%）で、いずれも前年度を上回る結果となり、改善することができました。

事業実績は、請負・委任事業の受注金額が1億5,425万円であり、前年度より724万円の伸びとなりました。また、受託件数は4,474件で、前年度を179件下回る結果となりました。派遣事業は、順調に推移し、本年度実績は前年度から116万円増加し、1,566万円となりました。請負・委任事業と派遣事業を合わせた受注金額は、本年度1億6,992万円で、昨年度比841万円の伸びとなり、新型コロナウイルスの影響等で大きく落ち込んでいた契約実績から徐々に回復することができました。

しかしながら、請負・委任、派遣事業とも回復傾向にはあるものの、

まだまだ厳しい状況が続いていますので、令和5年度においても引き続き関係市町に公共事業の発注をお願いするとともに、民間事業所、個人の新規注文を獲得するなど、受注の拡大に向けてより一層取組みを強化する必要があります。

今後も、引き続き会員、役職員一人ひとりが努力を結集することで地域社会に貢献できるよう、総力を挙げて活力あるセンターの形成に努めていかなければなりません。

以下に、主な事業概要について報告いたします。

事業概要

1 組織体制の充実・強化に関すること

- (1) 理事会及び各種委員会、地域班役員会、職群班会議等を開催し、それぞれ業務の運営に積極的に努めました。
- (2) 会員相互の連帯意識や就業機会の拡大を図るため、地域班班長会議を2か月に1回開催し、会員の意見を幅広く聴く機会を設けました。また、3年ぶりに地域班会員地区懇談会を開催し、100名を超える出席者を得て、懇談を深めることができました。
- (3) 地域社会とともに歩むセンターを目指して取り組んでいる普及啓発活動は、公共団体等のイベント開催がコロナ禍の影響から一部中止となりましたが、2か所で開催することができました。また、公共施設でのボランティア活動についても、管内2か所で草刈り、清掃、植木の剪定作業を実施することができました。

2 会員の増強促進

- (1) 会員の増強は、センター活動の大きな柱であるため、一般住民向けに薬膳料理講習会、網戸張替え体験を開催したところ9名の参加があり、2名の新規入会につながりました。また、5月及び9月の年2回、管内全戸に会員募集チラシの折込みや行政広報紙への掲載を行うとともに、初めて会員拡大キャンペーンに取り組みました。キャンペーンでは8月から12月の期間中18名の入会、内紹介会員11名の実績につながり、一定の効果を生むことができました。

(2) 入会希望者に対する説明会を毎月20日及び臨時に開催しました。その結果、入会説明会の参加者は年間合計で64人、月平均は5.3人で、内新規入会者が48人ありました。一方、退会者は43人であったため令和4年度末の会員数は5人増加し353人となりました。これは、平成28年度以来6年ぶりに入会者が退会者を上回った結果であり、前年度末会員数348人を超える会員数を得ることができたのは、会員拡大キャンペーンを始めとした地道な入会運動の成果と言えます。会員の内訳は男性247人、女性106人、平均年齢は男性74.1歳、女性74.2歳、全体では74.2歳となっています。

3 就業開拓と拡大

(1) センター活動の更なる発展と会員が希望する就業を提供するため、関係市町長に運営費補助金の継続、公共事業の発注拡大などの要望活動を行いました。

また、京都府シルバー人材センター連合会、京丹後市シルバー人材センターと共に、京都府丹後広域振興局長に対し、運営補助金の継続及び公共事業の発注拡大などの要望書を提出しました。

(2) 会員主導型の就業を念頭に、職群班の確保と体制強化を図るため職群班班長会議を開催し、発注者の要望に応えられる班体制並びに班同士の協力体制と、会員の仲間意識の高揚や安全指導、さらには後継者育成に努めました。

(3) 地域で課題となっている空き家見守りサービスを宮津市地域で令和5年度からスタートすることとしました。また、草刈り、

剪定等の残材処分について、処分料が後納払いとなるようクリーンセンターと調整し、令和5年度から開始することとし、会員の一時的負担を解消することができました。

4 介護予防・日常生活支援総合事業の推進

介護予防・日常生活支援総合事業を受託し、スムーズな事業運営と利用者へのきめ細やかな対応ができるよう定例会・研修会を開催しました。事業の実績では、利用者の減少傾向から宮津市及び与謝野町で23名（年度末現在）の利用者数に留まり、延べ利用回数は946回、契約金額は189万2千円で、前年度を下回る結果となりました。

介護予防・日常生活支援総合事業の実績

項目	年度	宮津市	伊根町	与謝野町	合計
利用者数 年度末（人）	令和4年度	12	—	11	23
	令和3年度	19	—	10	29
増減		△7	—	1	△6
延利用回数 （回）	令和4年度	451	—	495	946
	令和3年度	953	—	536	1,489
増減		△502	—	△41	△543
契約金額 （千円）	令和4年度	902	—	990	1,892
	令和3年度	1,906	—	1,072	2,978
増減		△1,004	—	△82	△1,086

5 独自事業の推進

(1) シルバー健康弁当の推進

平成29年度から開始した弁当グラン・マのグループによるシルバー健康弁当は、令和4年度に6年目を迎え、平成31年1月にセンター内に整備した新しい調理室を拠点に積極的に活動してきました。現在では、毎週金曜日に100食をお届けできるようになり、令和4年度においては、グループ会員も1名増え、目標としていた5,000食を超える5,300食を売り上げることができました。今後も唯一の独自事業として推進します。

- ・販売日 定例の販売日は毎週金曜日とし、他に注文に応じて配食を実施
- ・就業実人数 11人（令和5年3月31日現在）
- ・月活動回数 4回～7回 計62回／年
金曜日のほか注文に応じて配食日を追加
- ・販売数 5,300食
(1回あたり平均販売数85食)
- ・販売金額 2,883,250円

6 普及啓発活動の推進

(1) 広報紙「宮津与謝広域シルバーだより」を年2回発行し、管内の各家庭、事業所等にセンターの運営状況や管内施設の紹介など地域情報を広報するとともに、積極的に会員募集、仕事募集を行いました。また、随時、情報をリアルタイムで更新できるようセンターのホームページを全面リニューアルし、情報発信機能の充実を図りました。

- (2) 全国一斉「シルバーの日」として設定された10月の「普及啓発促進月間」の取り組みは、イベント開催に合わせ島崎公園芝生広場及びよさの野菜の駅において啓発用チラシにマスクを添えて来場者に啓発しました。また、ボランティア事業は宮津市役所が雨天中止となりましたが、伊根浦公園、大江山運動公園において社会奉仕活動を実施しました。

7 安全・適正就業対策の推進

- (1) 安全はセンター事業の基盤であり、全てに優先することを全会員に周知徹底するため、就業環境の確認と安全・適正就業の徹底を図りました。
- (2) 草刈り、植木剪定作業では安全用具の着用や安全就業基準の遵守、防護ネット活用等の指導を行いました。令和4年度は、会員の傷害事故はありませんでしたが、機械除草作業の飛び石事故が残念ながら5件も発生し、大きな課題となりました。

全体の事故発生件数は以下のとおりです。

事故発生件数

傷害事故 0 件（昨年度 2 件）

物損事故 7 件（昨年度 1 件）

計 7 件（昨年度 3 件）

8 会員の就業に関する講習会・研修会の実施

高齢者活躍人材確保育成事業として、京都府連合会と連携して薬膳料理講習会（受講者 一般4名、会員8名）及び網戸張替え体験（受講者 一般5名）を開催し、地域の高齢者等の雇

用・就業機会の確保及び会員獲得に取り組みました。網戸張替え体験では、会員2名が講師を務め、参加者に好評を得ました。

また、会員を対象に改めて基本的マナーを学習する機会として、初めてビジネスマナー講習会を独自開催するとともに、京都府連合会が主催して開催する人権研修会に、京丹後市シルバーとともに37名が参加し、同和問題についての研修を深めました。

9 一般労働者派遣事業（シルバー派遣事業）の推進

当センターに、京都府連合会が行う一般労働者派遣事業（シルバー派遣事業）の宮津与謝事務所を置き、派遣業務を実施しました。主な職種は自動車運転、保育補助、JA作業、史跡調査などとなっており、令和4年度の実績は、契約件数10件、契約金額は1,566万7千円で、受注額は昨年度比116万4千円の増加となりました。

派遣労働者事業の実績

項目	契約件数 (件)	契約金額 (千円)	就業実人員 (人)	就業率 (%)	就業延人員 (人)
令和4年度	10	15,667	43	89.6	2,043
令和3年度	13	14,503	35	71.4	1,967
増減数	△3	1,164	8	—	76
増減率 (%)	△23.1	8.0	22.9	—	3.9

10 有料職業紹介事業の推進

京都府連合会が行う臨時的かつ短期的な雇用による就業、またはその他軽易な業務に係る職業紹介事業については、講習会に職員1名を参加させましたが、事業の実績はありませんでした。

11 個人情報の保護

「個人情報の保護に関する規程」に基づき、個人情報を取得するときは利用目的を明示し、第三者への個人情報は会員の同意を得るなど、個人情報の運用・管理を徹底しました。

また、パソコンへの不正アクセスを防止するためセキュリティ機器を新たに設置し安全管理を徹底しました。

12 健全な財政運営と運営基盤の強化

財政運営が厳しいため、引き続き職員数の抑制（1名減）と運営経費の節減、効率的な業務運営に努めるとともに、毎月決算時において財政の収支状況を見通し、理事会へ報告するなど、財政管理を行いました。受託事業収入については、その早期回収と積極的な受注に心掛けました。

令和5年10月から施行されるインボイス制度に対応するため、令和5年4月から特定費用準備資金としてインボイス制度対応積立資産を設置・保有し、今後、運営費からの積立てや事務费率引上げによる財源確保を行うよう方針を定めました。

また、地域班、職群班の会議を重ね、体制強化と会員相互の連携を深め、運営基盤の強化に努めました。

13 事務局機能の充実・強化

令和2年度から職員体制を8名から7名に減員しましたが、各職員とも経験を最大限に生かしながら相互に協力することで、事務局運営を維持することができました。また、毎朝の朝礼や事務局内での報告・相談などを密にし、情報共有に努めました。職員資質の向上については、関係機関主催の職員研修会に積極的に参加させ、職員の事務処理能力の向上に努めました。